

農林水産大臣賞（近畿ブロック最優良事例）

海上区（兵庫県美方郡新温泉町）



〈 棚田特別栽培米「うみやーなあー」 〉



〈 元気村で開催された収穫祭の様子 〉



〈 地元産農産物の加工品 〉

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

海上集落は、新温泉町の南西部にある上山高原の山麓に位置し、日本海に流れる岸田川の支流小又川の最上流の集落で、標高は 350m～500m、冬には 2m 以上の積雪となる豪雪地帯であり、人口は約 100 人で高齢化率 62%と少子高齢化が進んでいる。

集落の農地のほとんどは地形条件が厳しい山間の棚田で、地滑り地帯でもあることから、基盤整備が進んでおらず、農作業の作業効率、反収ともに低く、個別完結型の農業経営では採算性に課題を抱えている状況にあった。

更には、農家の高齢化が進み後継者の確保も難しい状況にあったことから、『このままでは集落が無くなってしまう、1 年でも長く集落を維持したい』との集落住民の思いから、むらづくりの取組が始まった。

（２）むらづくりの内容

海上区は、地区全戸参加型でアンケート調査やワークショップ等により検討を重ね、「集落農業経営プラン」を策定し、「海上営農組合」を設立するとともに、畜産農家との連携により低農薬栽培を可能とし、棚田特別栽培米「うみやーなあー」のブランド化に成功するなど、地域の特色を活かした活動によって集落農業の活性化を図ってきている。

また、交流拠点施設「うみがみ元気村」の整備を契機に、農産物加工・直売所、食堂を立ち上げ、女性の活躍・生きがいの場を創設するとともに、住民自らが楽しみ無理なく継続できるイベントにより、地域内外との交流の促進を図るなど、地域コミュニティの形成・継続がされている。

更に、「うみがみ元気村」で製造された地元産農産物の加工品や棚田ブランド米「うみやーなあー」を神戸市のアンテナショップや道の駅等で展示販売することにより、村の中に小さな経済と棚田米生産農家の農業経営の安定を生み出しているとともに、地域の大切な資源である棚田の保全や農村景観の維持が図られており、これらの取り組みによって、集落機能の維持・発展に寄与している。